

【社会人】 自立した子供との親子の距離について《相談員の考察》

みなさんは、「親子の距離」と聞いて、何を想像するでしょうか？

横に並んで歩く時のお互いの物理的距離？ 寝かしつける時の位置関係？

世話をする頻度や内容（濃さ）？ 感情的な関係（心配の程度・度合）？

子供の問題解決に関わる程度・深さ？ 何かを教えるときの教え方の程度？

私たちのNPO団体の若いスタッフと話していて、考えたことは、「親が子に対して行う“注意喚起”の言葉が具体性を増すか否か？が親子間の距離を表すのではないか」ということ。子供の成長段階に合わせて、注意喚起の具体性を減らしていくことが、親子の間の距離を取ることはないかと考えました。

例えば、親元から離れて働いている子供に対して、インフルエンザが流行っているときに、親は子供にどんな注意をするかを考えてみます。

1. 「インフルエンザが流行っているから、気を付けてね」

→ 親の気遣いが伝わります。

2. 「インフルエンザが流行っているから、うがいを忘れないで！ちゃんにご飯食べるのよ。部屋の暖房は大丈夫なの？栄養のあるものを送るからちゃんと食べてね……」

→ 「わかっているよ！もう、うるさいな～」となりかねません。

離れて暮らしているので心配になることは分かりますが、すでに1人で暮らす程に自立している子供に対して、少し親の過干渉になっていないでしょうか？

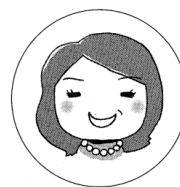
大人になった子供には、困ったときにはサポートするけれど、そうでなければ信頼して任せる・見守るという親子の間の距離の取り方。難しいけれど、一組ずつのそれぞれの親子にとって、程よい親子の間の距離の取り方を、いつも考えています。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」

（運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット）

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。



墓田さん



森さん

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。